

大中遺跡の時代はどのへん?

旧石器時代... 今より寒く、狭くなった海峡を越えて
30,000年前 人や動物が渡ってくる

縄文時代...
12,000年前 土器が作られ始める

3,000年前 水稻耕作が始まる

弥生時代...
2,300年前 青銅器や鉄が伝わる
2,000年前 倭の奴国王、後漢から金印を受ける

大中遺跡の時代

1,800年前 邪馬台国の女王卑弥呼魏に使いを送る

古墳時代...
1,500年前 仏教が伝わる

飛鳥時代...
1,400年前 聖徳太子が憲法十七条を定める

みんな仲良くね!

大中遺跡

兵庫県加古郡播磨町大中
大中遺跡は町内に住む3人の中学生によって発見された。地元のお年寄りから「昔、ここから大昔のタコツボがいっぱい出てきた」と聞いた3人が地面を掘ってみたところ、大量の土器を発見したのが始まりだったんだ。

その後の発掘調査で、この遺跡が弥生時代の大きな村だったことがわかったんだよ。

遺跡が見つかった昭和37年(1962年)は、開発が盛んに行われ始めた頃だった。大中遺跡も、開発で消滅しそうになったけれど地元の人たちの努力で保存された。昭和42年(1967年)に、国の史跡に指定されて今では公園として親しまれている。

編集・発行 考古学倶楽部遺跡案内チーム デザイン・井上リエ
問合せ・TEL 079-437-5589(兵庫県立考古博物館内)
このパンフレットは、花王・コミュニティミュージアム・プログラム2009の助成を受けて制作しました。

おおなか いせき 大中遺跡 弥生の村へようこそ



大中遺跡ってどんな遺跡?

大中遺跡の大きさや特徴を調べるためにこれまで23回の発掘調査が行われてきた。その結果、次のようなことがわかっているよ。

- 1 遺跡の範囲は、長さ500m、幅180mで、約7万㎡の広さ(甲子園球場の5個分!)
- 2 大中遺跡は、約1900年前(弥生時代後期)から150年くらい続いた。こんなに大きな遺跡なのにあんがい短い期間しか使われなかったようだ。
- 3 これまで全体の20%の面積を調査して、73軒の竪穴住居跡が見つかった。
- 4 発見されたのは竪穴住居ばかりで、お墓や、田んぼ、米などを蓄えていた倉庫や見張りのための塔などは、まだ見つからない。



大中遺跡は、住居ばかりが見つけられ、田んぼやお米を作る道具は見つからないけど、煮炊きに使った甕や、食べ物を盛る高杯、保存用の甕や、鉢(お椀のようなもの)などが出土しているよ。

遺跡のまわりの水が豊富な場所でお米を作っていたのかな。

遺跡のまわりの林で集めたどんぐりなども食べていたのかも。裏面のツツを見ながら、遺跡の中で食べられる木の葉を探してみよう!

家の中に入ってみよう!

竪穴住居は、地面を70cmくらい掘って造られている。木で作った階段で、出入りしていたよ。

この1101号住居は、4本の柱で屋根を支えている。家のまん中に火を焚いた跡(A)、奥の壁には穴(B)がある。水めき用の穴だったのかもしれないね。

柱の材料は、近くに生えているアハキやコナラ、屋根は、川や池に生えているアシキを使っている。中に入ると、冬は暖かく、夏は涼しく、あんがい住みやすい建物なんだ。ちょっと暗いけどね!

弥生時代には何軒の家があったのかな?

本当の数はわかっていないけど、見つけた住居跡の数から考えると、遺跡内には少なくとも250軒くらいの住居が建てられたよ。ただし、これは遺跡が続いていた約150年間の数。同時に存在していた住居の数は、20~25軒くらいになる。1軒に5人が住んでいたとすれば...

集落の人口は 100~125人で、大きな集落だった。

昔の写真や地図を見ると、大中遺跡はまわりを池と川に囲まれた丘の上にあったことがわかる。

海までの障害物がなかった1900年前頃には、ここから瀬戸内海が見渡せ、海を行き来する舟などがよく見えたことだろう。

遺跡のまわりには、クスノキやツバキなどの照葉樹(1年中緑の葉をつける)の林が広がっていたよ。

弥生時代は どんな風景だったんだろう?



大中遺跡公園 & とんぐツリマップ

イチョウ

展望塔

コナラ

トチ

オニグルミ

兵庫県立考古博物館



播磨町郷土資料館



西入口

体験広場

2302号住居

竪穴住居跡

であいのみち

1101号住居(新)

92号住居

1101号住居(旧)

竪穴住居跡

8号住居

第1土器群下部住居

1901号住居



クワ



カヤ



クリ

東入口



ヤマモモ

他にも
いろいろ
木の果があるよ!
探してみよう!!



マテバシイ

クヌギ

スダジイ

アラカシ